

## リウマチ・膠原病内科

### (1) リウマチ・膠原病内科の目標：

我々の科としての理念は個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもと、エビデンスに基づいた最善の治療を行う。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。

患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力いたします。患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

### (2) リウマチ・膠原病内科の方針および展望：

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室および神戸大学臨床病態免疫学講座との臨床検討会および臨床研究の推進。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得る。

### (3) リウマチ・膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、アレルギー性肉芽腫性血管炎、顕微鏡的多発動脈炎、大動脈炎症候群、巨細胞性動脈炎など）、多発性筋炎・皮膚筋炎、ベーチェット病、シェーグレン病、成人発症スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象とした。

### (4) 外来診療体制（平成 22 年度）

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療性としている。

#### リウマチ・膠原病内科外来（予約）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前	八木田	籾 智	塩 見	籾 智	八木田	交代
午後	八木田	籾 智	西田	籾 智	八木田	

八木田

#### リウマチ・膠原病内科外来（初診・当日受診）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前	籾 智	西田	塩見・西田	八木田	西田	交代

### (5) 外来診療統計（平成22年4月1日より平成23年3月31日）

外来受診者数（のべ数）13,789名（のべ数），月平均1,149名

初診者数 788名，月平均 66名、紹介率 83.1%

### (6) 入院診療実績（平成22年4月1日より平成23年3月31日）

入院は主として全身性エリテマトーデス、関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い、2010年度入院患者数は 153 名。平均在院日数：25.6日

2010年度の主な入院は：

関節リウマチ 37名、全身性エリテマトーデス 34名、強皮症 2 名、混合性結合組織病 2名、多発性筋炎 2 名、皮膚筋炎 5 名、ベーチェット病 5 名、リウマチ性多発筋痛症 8 名、大動脈炎 3 名、顕微鏡的多発血管炎 7 名、結節性動脈周囲炎 1名、アレルギー性肉芽腫性血管炎 3 名、成人スチル病 7名、シェーンライン・ヘノッホ紫斑病 3 名、シェーグレン症候群 3名、不明熱 3名、偽痛風 2名など。

(7) リウマチ膠原病教室の開催

平成18年度よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を持っている。

平成22年度の開催

第 9 回 平成22 年 10月 16 日(土) 午後 3:00 ~4:30

①「膠原病と腎臓」北野病院・腎臓内科 古宮 俊幸 医師

②「リウマチ・膠原病と妊娠・出産」北野病院・リウマチ膠原病内科 西田美和 医師

第 10 回 平成23 年 3月 19日(土) 午後 3:00 ~4:30

①「関節リウマチのリハビリテーションと装具療法」 整形外科副部長 麻田 義之 医師

②「リウマチ膠原病における骨粗しょう症の実態と治療」

リウマチ膠原病内科副部長 簗智さおり 医師

(8) 教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されています。八木田および簗智は日本リウマチ学会専門医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っています。八木田は京都大学医学部および神戸大学医学部臨床教授であり、京都大学および神戸大学医学部より定期的に学生を受け入れています。また、関西免疫研究会、地域合同勉強会を通じて、内外の若手内科医の教育や臨床免疫学の啓蒙を行っています。

(9) 院外活動および地域医療との係わり：

①地区医師会（大阪府医師会、北区、淀川区等）との合同勉強会、CPCを通じて、病診連携の推進している。

②八木田は阪神合同CPC（年2回開催、2月および9月の第3木曜6：30pmより）の事務局を勤めた。

③大阪バイオロジックフォーラムを開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。H22年度はH22年11月13日（土）北野ホールで開催した。

(10) スタッフ H22年度

部長 八木田 正人 医学博士

日本内科学会認定医・指導医、日本リウマチ学会専門医

日本リウマチ財団登録医

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病）、臨床血液学

副部長 簗智 さおり 医学博士

日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 西田 美和

専門部門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 村上 功

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 松浦 良信

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

外来応援医師

塩見 葵（京都大学医学部大学院（臨床免疫学））

日本内科学会認定医、日本リウマチ学会専門医

(11) 研究課題 (平成22年度)

- 1 ループス腎炎におけるCD28/B7ファミリー共刺激分子の関与  
(簗智さおり)
- 2 インフリキシマブ治療により導入された関節リウマチの低疾患活動性の維持に関する研究 (RRR) --- 多施設共同研究  
(八木田正人、簗智さおり、西田 美和、松浦 良信、牛尾一康)
- 3 自己免疫性疾患にみられた選択的IgA減少の病態解明  
(八木田正人) ---- 大阪府赤十字血液センターとの共同研究
- 4 自己免疫性疾患におけるEBウィルスの再活性化の病態解明  
(簗智さおり、八木田正人)
- 5 成人スチル病病態に係わる種々因子の検討  
(村上 功、八木田正人)
- 6 自己免疫性疾患における病原微生物の関与  
(八木田正人)
- 7 自己免疫性発症・再燃におけるNK細胞の関与  
(八木田正人)

(12) 2010年度業績

【学会発表】

1. 旗智さおり (パネリスト). 研修医・若手医師の会場参加型セッション リウマチ学は面白い! (第二部) リウマチ専門医を目指す若き医師達へ. 第54回日本リウマチ学会総会・学術集会 (神戸) 2010年4月22日-24日
2. インフリキシマブ治療中に腓骨神経麻痺を認めた関節リウマチの一例. 八木田正人 簗智さおり. 第54回日本リウマチ学会総会・学術集会 (神戸) 2010年4月22日-24日
3. 全身性エリテマトーデス (SLE) に伴う間質性腎炎を発症した一例. 西田美和、大西輝、簗智さおり、小宮俊幸、八木田正人. 第54回日本リウマチ学会総会・学術集会 (神戸) 2010年4月22日-24日
4. M. Yagita, K. Yasui, Y. Hori. Reversible IgA deficiency after severe Gram-negative bacteria infection in a case with PSS. 14<sup>th</sup> international Congress of Immunology (Kobe) (a poster presentation) Aug 22 - 27, 2010

【原著】

1. Yagita M, Yasui K, Hori Y, Kimura T. Reversible IgA deficiency after severe Gram-negative bacteria infection in a patient with systemic sclerosis. Mod Rheumatol. 2010 Sep 28. [Epub ahead of print]
2. Hatachi S, Kunitomi A, Aozasa K, Yagita M. CD8(+) T-cell lymphoproliferative disorder associated with Epstein-Barr virus in a patient with rheumatoid arthritis during methotrexate therapy. Mod Rheumatol. 2010 Oct;20(5):500-5. Epub 2010 May 1.

3. Kasagi S, Kawano S, Okazaki T, Honjo T, Morinobu A, Hatachi S, Shimatani K, Tanaka Y, Minato N, Kumagai S. Anti-programmed cell death 1 antibody reduces CD4+PD-1+ T cells and relieves the lupus-like nephritis of NZB/W F1 mice. J Immunol. 2010 184(5):2337-47.

**【著書】**

1. 八木田 正人. レイノー現象. リウマチ・膠原病内科クリニカルスタンダード. 三森経世 編 pp 15-19. 2010年 文光堂（東京）
2. 杉本健、熊谷俊一、旗智さおり、小柴賢洋. ナチュラルキラー(NK)細胞活性, リンホカイン活性化キラー細胞活性(LAK 活性), キラーT細胞分化因子(KHF). 日本臨床 6月増刊号 pp873-76. 2010年 日本臨床社（大阪）